



野田小だより

学校教育目標

活力にあふれた学校

●がんばる子

●やさしい子

●学びつづける子



11月

鷹狩りと野田のさぎ山

平成29年11月1日

校長 小林 達哉

10月に入って、台風21号、22号と大きな台風が日本列島を襲い、大きな被害が出た所もあったようですが、幸い野田小には大きな被害はありませんでした。

さて、10月28日(土)は、美園中学校の合唱コンクールでした。昔は、合唱コンクールというものは、あまり聞きませんでした。今はほとんどの中学校で実施しているようです。私も招待状をいただきましたので、行ってまいりました。本校の卒業生の様子を見たかったからです。いざ始まってみると、本校の卒業生が実行委員や指揮者、伴奏者を見事にやっています。役がない子もみんなよい表情で歌っていました。小規模校の卒業生なので、大きな集団に入った時に自分を出して活躍できるだろうか、と心配していたのですが、その心配は無用のものであることが分かりました。子どもたちの順応力の高さに驚きました。

また、同日美園コミュニティセンターを中心に「日光御成道 美園 大門宿まつり」が行われました。今年で3回目となりますが、その中心事業である「子ども日光社参行列」に本校の児童も3年生以上の4名が参加しました。これは、江戸時代に徳川将軍家が家康をまつてある日光東照宮に参拝した日光社参を再現したもので、野田小学校・美園小学校・大門小学校の3校から希望者を募って、将軍や小姓などに扮して練り歩くものです。当日はあいにく雨のため屋内を歩くのみとなってしまいましたが、4名の児童には、当時の社参に思いをはせるよい機会となったようです。



なお、祭りの他の事業として美園地区の「鷹(たか)狩りと鷹場(たかば)」についての講演と展示がありました。野田小の学区とも密接に関係していますので、概略を述べたいと思います。

鷹狩りとは、鷹を狩るのではなく、飼い慣らした鷹を放って、小動物をとらえる狩猟法で、わが国には古墳時代にもたらされました。日本に伝わった鷹狩りは貴族や武士に普及し、儀礼として発達しました。江戸時代には、徳川家康が鷹狩りを好んだことにより、絶頂期に達しました。初代将軍の家康をはじめ、二代秀忠、三代家光も、浦和や岩槻(大門・下野田・代山も含む)にまで来て鷹狩りを行いました。鷹狩りは、将軍家の独占事であり、鷹狩りをする地域を鷹場と称し、鳥見(とりみ)と呼ばれた役人によって管理されていました。美園地区にも将軍家の狩場があり、その鳥見として大門の曾田家が任にあたり、鷹狩りの際には、藩主らの宿泊や休憩等の接待にもあたっていました。



その後、五代綱吉の「生類憐みの令(動物の殺生を禁止した法令)」によって、一時廃止となりましたが、八代吉宗の時に再開されました。その頃には、鷹狩りのほかにイノシシ狩りも行われました。また、鷹狩りのためにいくつもの決まりがありました。例えば、鳥を殺してはならない。雛や鳥を追ってもならない。鳥のエサになるので川魚を殺してはならない。鳥が寄り付かなくなるので騒がしくしてはいけない。鳥が寄り付くところに新しく家を建ててはいけない。鶏や犬は飼ってはいけない。などです。

これらのきまりがあったために、野田地区に鷺(サギ)が繁殖し始め、集団営巣地の鷺山(現在の国際興業浦和東営業所)を徳川家が保護することになりました。日光社参途中に十代家治や十二代家慶も立ち寄ったそうです。その後、営巣地は寺山、上野田、代山に移っていき、昭和に入ると特別天然記念物になりましたが、見沼たんぼの畑作化で、餌場縮小、農薬、夜間照明、交通量増大などにより、現在、サギはたまにしか目にしなくなりました。

少し難しい話になりましたが、郷土である美園、野田地区の昔の様子に少しでも興味を持ち、郷土愛をはぐくんでもらえたらと思い、来週のお話朝会でも子どもたちに話して聞かせようと思っています。

